



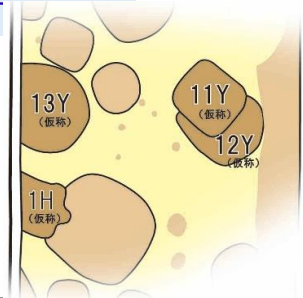
氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

作成日：2024.2.8
富士見市教育委員会
生涯学習課 文化財G

— ⑦ 令和5年11月6日～11月18日 —

11月第2週～第3週には、調査区の中央付近に位置する弥生時代住居跡、仮称11Y～13Yの調査が主となりました。また、今回の調査区で唯一の平安時代住居跡、仮称1Hで掘り下げを開始し、鉄製紡錘車などの出土がありました。

また、11月18日に行われた遺跡見学会では、足元の悪い中、100人以上の見学者にお集まりいただきました。

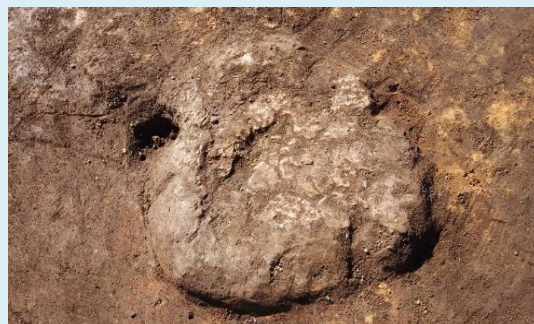


11Y(仮称)

11Yと12Yが重なり合っている様子



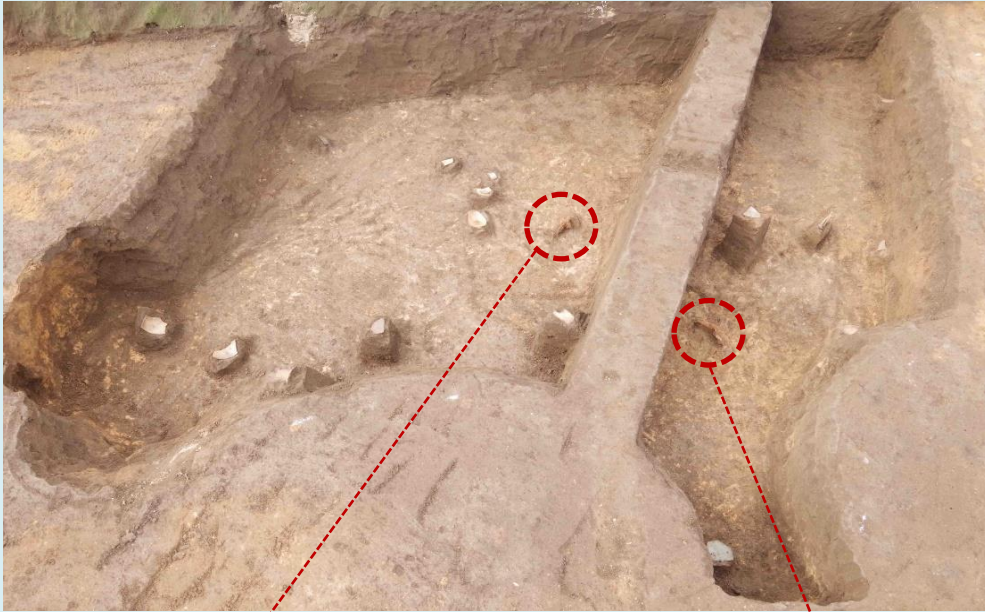
出土した遺物と炉



きわめて固く焼き締まった火皿式炉

弥生時代の住居跡、11Y(仮称)は、1辺が4.2mほどの、隅が丸い正方形に近い形です。12Yとは重なる位置にあって、12Yよりもより新しい住居跡です。床面近くから、弥生時代の壺や台付甕、高坏などが出土しました。炉は粘土を張り付けて作った「火皿式炉」で、火が焚かれたであろう中心部は、きわめて固く焼き締まっていました。

1H(仮称)



▲発掘調査中の遺物出土状況



鉄製の「紡錘車」
ボウスイ シャ



鉄製の鎌



2つに割れて出土した須恵器の坏
スエキ ツキ

平安時代の住居跡、1H(仮称)の掘り下げを開始しました。調査中には、土師器や・須恵器の破片、鉄製品などが出土しています。鉄製品は土中で錆びてなくなってしまうことが多く、土器などに比べて出土することは稀です。コマのような形をした鉄製品は、紡錘車と呼ばれる糸を紡ぐ道具です。市内では、氷川前遺跡と同じく大字水子に位置する東台遺跡などからも出土例があります。

13Y(仮称)

弥生時代の住居跡、13Y(仮称)は5.5m×5m程の隅丸長方形の住居跡です。一部は調査区外でした。住居跡床面の硬化が著しく、土間のようにバリバリに固まっていた。



検出時の様子



住居出入口方向



令和5年11月18日(土) 遺跡見学会の様子

前日の雨で足元がぬかるむ中、100人以上の見学者にお集まりいただき、氷川前遺跡第99-1地点で発掘された住居跡や、出土した遺物について説明させていただくことができました。

